

施工上の注意

全点共通項目

- 一部のビニル壁紙は施工難度が高いため、施工費が割増しになる場合があります。
- 下地は平滑に仕上げてください。天井や間接照明付近など、使用環境によって下地の不陸(段差、パテ跡、釘跡、糊ダマリなど)が目立つ場所がございます。特に表面がフラットな商品や薄手の商品は下地の影響を受けやすいため、入念に下地処理を行い施工してください。下地に配慮した施工を行うため、施工費が割増しになる場合がございます。
- 変色を避けるため、下地に応じてシーラー処理は必ず行ってください。特にコンクリート下地や合板下地の場合、水やアクを防ぐためシーラー処理は重要です。
- パテは下地材と同色のものを使用してください。
- 3中施工以降のクレームはお受けできない場合があります。

折りジワについて

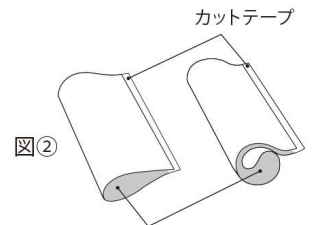
折りジワについて注意文がある商品は、取り扱いに注意が必要です。折りジワが付くと元に戻らない場合があります。

糊付け後の折りジワを防ぐポイント

- ① 重ねる枚数を制限する
ゆるやかに大ききたたみ、重ねも2〜3枚以内にしてください。(図①)
- ② 壁紙を巻く
壁紙に糊付けした後、壁紙をたたまないでヘリにカットテープ(養生用プラスチックテープ)を付け、頭としりをこのテープを挟んで合わせてふわっと置き、重ね置きをしないでください。(図②) 長さのあるものは同様にした上で軽く巻き、必要なオープンタイムをとってください。その際、重ね置きはしないでください。
- ③ 壁紙をプラスチックの袋などに入れる
糊付け後の壁紙は、プラスチックの袋や容器に入れて乾燥があまり早く進まないようにオープンタイムを取るのが最良の方法です。

糊付け後のたたみ方

図①



参考資料：壁装施工団体協議会発行「素晴らしい壁紙に素晴らしい技術」

特に注意を要する商品

特に注意を要する商品	
<p>汚れ防止壁紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 汚れ防止 ● リフクリーン ● アカルクリーン ● ハードタイプ 汚れ防止 ● スーパーハードタイプ 	<p>糊付け ・下地は平滑にし、濃いめの糊(エチレン酢ビ系接着剤入り)で施工してください。 ・糊付け後は折りジワが付かないように大ききたたみ、ジョイント部や出入隅は丁寧に圧着してください。</p> <p>施工終了後 ・表面に付いた糊は変色の原因となりますので、きれいな水を使用して十分に拭き取ってください。</p> <p>モルタルやコンクリートの下地に施工する場合 ・下地からの汚れやふくれを防ぐために、下地表面をシーラーで必ず2度処理してください。</p> <p>低温時に施工する場合 ・オープンタイムを長めにとってください。 ・冬期はできるだけ室内温度を暖めて施工してください。 ・接着剤は5℃以下になると接着強度が落ち、下地に逃げられない水分・空気が表面に抜けることができずふくれとなります。モルタル、コンクリート下地の場合は特に発生しやすいのでご注意ください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● ハードタイプ 撥水コート 	<p>糊付け ・下地は平滑にし、濃いめの糊(エチレン酢ビ系接着剤入り)で施工してください。 ・糊付け後は折りジワが付かないように大ききたたみ、ジョイント部や出入隅は丁寧に圧着してください。</p> <p>低温時に施工する場合 ・オープンタイムを長めにとってください。 ・冬期はできるだけ室内温度を暖めて施工してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 表面強化 ● ハードタイプ 	<p>糊付け ・下地は平滑にし、濃いめの糊(エチレン酢ビ系接着剤入り)で施工してください。 ・糊付け後は折りジワが付かないように大ききたたみ、ジョイント部や出入隅は丁寧に圧着してください。 ・汚れ防止機能を持つものは上記の汚れ防止壁紙の施工上の注意をご参照ください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● シッカクロス 	<p>・糊の乾燥が速いため、付け留めはできません。長時間置くと相剥ぎや目スキの原因となります。 ・糊付け後から施工直後は、糊の水分の影響で表面が黒っぽく見える場合がありますが、完全に乾燥すると元に戻ります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● エアセラビ 透湿 ● 透湿 	<p>・糊の乾燥が速いため、付け留めはできません。長時間置くと相剥ぎや目スキの原因となります。</p>